

【②見方や考え方について－B:授業をつくる教師の視点】

■図画工作・美術科教育で大切にしたいこと

図画工作・美術科教育の原点は、描き、つくり、見ることである。
形と色を通して、ものにかかわり、働きかけ、想像力を働かせ、自らの内面に思い描いたものをつくり、その完成の喜びと楽しさを味わうことのできる唯一の教科である。

表現や鑑賞の過程で頭と目と手を総合的に働かせ、感受性や創造力を培うことができる。そこには、人間が自分の外の世界に働きかけ、自らを成長させ、ものをつくり、生産活動を営む原初的な姿があり、人間の成長・発達には欠かせない。

人間の情報収集の8割以上は目から得られる。見ることの意味は大きい。「見れども見えず」「心の目で見る」というように、どこから、どのように、何を見るのか、認識や心とのかかわりも大きい。大脳生理学等の研究からも、造形活動にかかわるとき、右脳やアルファ波も活性化するという。

この教科で大切にしたいことを「造形」にかけて、次のようにまとめ、その改善の方策を示す。

- ぞ…存分に手と目と頭を働かせ…創造性。
- う…内なるものを…イメージ、想像、思いや願い。
- け…計画的に、工夫して…技能・構想。
- い…一生懸命に、形と色で表す…情熱・没頭。

イメージトレーニングを…鍛える造形。
大自然の中で、体験を大切に…ダイナミックな造形。
公共の場での表現…発信性・集団性。
鑑賞の重視…言語化と相互作用。

いけがみひでとし

(池上秀敏：新潟県上越市立稲田小学校校長)